



湖北

道の駅湖北みずどりステーション（長浜市湖北町今西）を運営する4B合同会社は同市特産の大豆を使った豆乳プリンを発売した。

同市の洋菓子店「エベヌ」と共同開発。乳製品が苦手な人でも食べられて、栄養価も高いことから豆乳を使用。豆乳を作る際にできたおからやきび砂糖も入っており、少し固めの食感でほんのりと甘みを感じる。卵は不使用。

きなこ黒蜜が付属してお

り、好みによってかけて食べることができる。毎週金曜日に10セットのみ販売。1セット2個入り800円（期間限定価格）。

道の駅の大山善次駅長は「まずは何もかげずに食べて、大豆本来の味を楽しんで」と話した。

また、苦味や渋みが特徴



新発売された「まるごと豆乳プリン」

長浜

特産大豆でプリン
道の駅湖北みずどりステーション

の地域伝統野菜「尾上菜」を使ったシェイク「尾上菜もみもみ」も同時発売した。

【長浜通信部・長谷川隆広】

杉本哲郎没後40年展

長浜 ゆかりの宗教画家

長浜

長浜市ゆかりの宗教画家、杉本哲郎（1899～1985年）の没後40年展が同市大島町の長浜文化芸術会館で開かれた。市内在住のコレクター「湖北の画人愛好家グループ」などが主催した。

杉本は大阪出身で、京都画壇の大御所、山元春挙に師事。その後、京都市立絵画専門学校などで日本画を学んだ。1937年以降、インドやスリランカで古代壁画の模写を手がけた。父善郎が長浜出身だった縁で、戦時中に疎開し



アレビヤを持てる菩薩＝長浜市提供

ており、戦後は豊公園内に画室を設け、慶雲館で個展を開催した。

展示された作品は全て市内の個人蔵。「パドマパニー」（1950年ごろ）、「アレビヤを持てる菩薩」（59年）、「聖徳太子尊像」（46年）などが並んだ。

【長浜通信部・長谷川隆広】

湖東

彦根

彦根城の音声ガイドマップ
観光協会が3000部

彦根観光協会（彦根市本町）は彦根城音声ガイドマップ「Amazing Hikone Castle」を3000部作成し配布している。世界遺産登録への機運を高めようと県の観光推進補助金などを活用した。フルカラーA3判で四つ折りにして携帯できる。

マップでは①表門②表門山道③大堀切④時報鐘⑤岩盤の石垣⑥太鼓門櫓（やぐら）⑦

面に各項目のQRコードが付いており、スマートフォンで読み込めば日英2カ国語で解説を聞くことができる。それぞれに「お堀はかつて何重だったでしょうか」「敵の侵入を阻む仕掛けは何でしょうか」といったクイズも添えられ、解説の中で種明かしされる。「スマホで楽しむ彦根ガイド」で検索してもこのシステムを利用できる。

【彦根通信部・伊藤信司】

伝統仏壇の技術で兜

彫刻、金具、蒔絵など駆使

彦根

国指定伝統的工芸品「彦根仏壇」の技術を生かした兜（かぶと）が発表された。制作したのは彦根市芹中町の井上仏壇（井上昌一社長）。ほぞ組みのヒノキ木工をはじめ彫刻、鏝（かざり）金具、漆塗り、金箔（きんぱく）押し、蒔絵（まきえ）の技を駆使し



伝統工芸の技術で仕上げた兜
井上仏壇ホームページより

た新製品。手打ちで作られた鍬形（くわがた）は彦根藩井伊家の軍配のデザインを取り入れたという。高さ21センチ、幅26センチ、奥行き17センチで価格は55万円。

彦根城下では天下太平の江戸中期、武具職人が仏壇作りに転向した。彦根仏壇は1975年、国の伝統的工芸品となったが、近年は需要が急減し、家具や食器など新分野を模索している。井上社長は彦根仏壇事業協同組合（23社）の理事長も務めている。問い合わせは0749・22・1587。

【彦根通信部・伊藤信司】